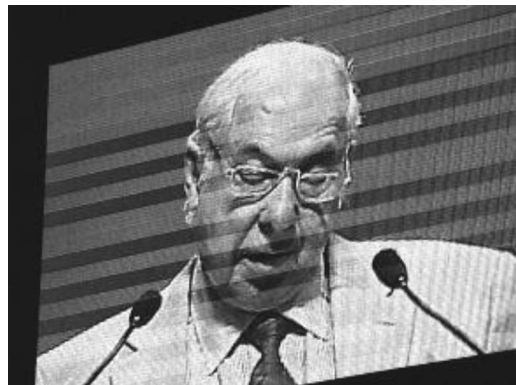


行ってきました!

原水爆禁止 世界大会 in 広島



国連から事務総長代理として初めて参加のセルジオ・ドゥアルテ軍縮問題担当上級代表



「核兵器なくそう・世界青年のつどい」



被爆者の証言を聞く



青年分科会で一緒になったみなさんと

核兵器は廃絶できる!

世界の流れを実感

8月4日から6日まで広島で開かれた原水爆禁止世界大会に参加しました。大会は、NPT(核不拡散条約)再検討会議が開かれる2010年を核兵器廃絶への転機とする世界的運動をよびかけ、すみやかに核兵器禁止・廃絶条約の交渉を開始し締結することを求める署名に取り組むことを決めました。

総会開会
「核廃絶は、人類の営みのなかで最も崇高な活動のひとつ」と国連の代表

秋葉忠利・広島市長が発言。生き残った被爆者の心の傷は癒えないこと、核兵器から身を守る手段は廃絶しかないと強調しました。

国連から事務総長の代理として初参加したのが、セルジオ・ドゥアルテ軍縮問題担当上級代表。

「核廃絶は、失敗したのではなく、進行中の努力。人類の営みの中で、最も崇高な活動のひとつだ」との発言に胸をゆさぶられました。

世界青年のつどい
世界と日本全国から1500人の青年が参加

「イギリス核軍縮キャンペーン」のブルース・ケントさん(79歳)は、元兵士。「生きているうちに変革を起こすことはできる」「核兵器は、(後々の)すべての世代において文明を破壊するもの」と話されました。秋葉・広島市長がかけつけ、「核兵器廃絶が不可能はでない状況をつくってきたのは、被爆者と世界各地の運動だ」と語りました。

原爆症認定集団訴訟熊本原告団事務局長の中山高光さんの「アメリカ・ネバダやアラモゴード、韓国などの被爆者、核実験場などを訪れた際、日本の加害を日本国民の一人として謝罪し、そのうえで核兵器の間違いを訴えると、反応がまったく違う、共感される」との話が印象に残りました。

被爆者の証言
「核も戦争もない地球に」という若い世代への訴えを受けとめて

2日目の青年分科会は800人が参加し、グループに分かれて被爆者の方を訪問しました。

8月17日に広島市に入り被爆したYさんは、「当日その場にいらなくても、放射能は心と体をむしばむ」。「黒い雨地域」で被爆した妻は、がんが転移して苦しさで耐えきれず自ら命を絶つたというつらい体験も話してくれました。そして、「核も戦争もない地球にしたい。若いみなさんにはできるところから協力してほしい」と締めくくりました。「この思いにこたえる生き方をしたい」——私もふくめ、グループみんなの共通した感想でした。



新宿代表団のみなさんと



日本共産党衆議院東京1区若者相談室長

富田なおき

事務所ニュース

10 2008.8.31

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail: tomita-naoki@nifmail.jp

富田なおきの生いたち

山に囲まれた所で一生を終えるのは嫌だという気持ちが強くなり、大学進学を機に、山形を離れることになりました。

以前から社会科学分野を学びたいと思っていて、法政大学の法学部政治学科に入学しました。大学に入って急に世界が広がった気がしました。

卓球とジャズバンドのサークルに入り、サックスにも挑戦しましたが、この2つは1カ月で挫折しました。

留学生との交流を目的とした国際学生交流会にも入りました。これまで見たことも聞いたこともないサークルで、大学の主催で年1回行なわれるスピーチ大会に参加する留学生の援助者



国際学生交流会のメンバーと。左から3番目が富田、その右は中国の留学生

をしました。

このサークルは、首都圏の13大学15団体でつくる「国際交流大学連絡協議会(SNIE)」に加盟して、後にこの協議会の副会長を務めることになり、国際学生交流会やSNIEの活動が学生生活の中心となっていきました。

法政大学に進学し、山形から東京へ。世界が大きく広がった



日本共産党港区委員会と港区議団は8月2日、「区政報告と懇談会」を開き、50人余が参加しました(写真)。

6月の区長選で大健闘した金子孝重党地区委員長がいさつ。引き続き国政、都政での日本共産党の躍進を訴えました。

いのくま正一区議団幹事長が、7月に開かれた区議会定例会の内容を報告。参加者が、介護職場の実態、区政と街づくり、再開発からどう街を守るか、都立病院の存続などについて発言しました。

富田なおきは、日本共産党が国会で果たしているかけがえのないの値打ちを語り、日本共産党の躍進を訴え、その先頭に立って奮闘する決意を表明しました。

港区 区政報告と懇談会

富田なおきが発言

政府に要請

国の責任で介護人材不足の打開を 原油高騰からくらし・営業守る対策を

8月7日、介護の問題、くらしと営業の問題で、日本共産党東京都委員会のみなさんといっしょに、政府に要請しました。

最初は、厚生労働省へ、介護保険の給付抑制をやめ、介護現場で深刻な人材不足を打開するよう、要請しました。

小池晃参院議員が、「介護給付抑制で介護現場は人材も集まらず、必死の努力を続けている。国が人材確保に必要な措置を取り、保険料など利用者の負担増にならないようにしてほしい」と要求しました。

厚生労働省の担当者は、離職率が高いなどきびしい現状は認識しているとして述べ、保険料水準にも留意して介護報酬を適正に改定したいとし、国庫負担の引き上げは困難との態度を示しました。続いて、原油などの高騰への



厚生労働省への要請(8月7日)

対策について、政府から聞き取りをおこない、実効ある対策を要望しました。

経済産業省の「通商白書」によれば、原油や穀物価格は、投機マネー等により4割前後もつり上げられています。政府の責任で投機マネーを規制すべきです。政府の姿勢を改めさせ、くらし・営業を守る実効ある対策実現へさらにながらびます。

ひき続き各地域で、夏祭り、盆踊り、納涼会など



新宿区住吉町の祭り、地元の共産党後援会「あけぼの会」のみなさんが準備したところてんです。おかげさまで完売しました。

8月2日、私の事務所を置かせていただいている、地元住吉町の祭りでは、大山とも子都議と一緒に、盆踊りの輪に入って、踊らせてもらいました。



「納涼のつどい」であいさつする富田なおき。続いて福山区議が区政報告。その後、バーベキューを囲んで懇談しました。

例年になく暑さを吹き飛ばすような勢いで、各地域で夏祭りや盆踊りなどが盛んにおこなわれています。その数の多さ、多彩さ、みなさんの大きなエネルギーに圧倒される思いです。

私も可能な限り参加させていただいていますが、お誘いをうけても、とても行ききれず、失礼したところもありました。

8月23日、千代田区小川町の福山和夫区議宅ビルの屋上で、外神田・お茶の水後援会主催による「納涼のつどい」が開かれました。